

冬の大地に

(昭和四十八年寮歌)

伊藤潤平君 作歌
矢野哲憲君 作曲

一

冬の大地に夢は醒め
旭日に浮ぶ白亜城
原始の森は樹氷咲き
西方空を眺むれば
新雪淡き手稲山

二

ポプラ並木の葉も落ちて
秋の香深き夕間暮れ
白日西に沈み行き
素月東の森に出ず
乾坤環り復た周る

三

浜茄子の砂丘たたずみて
はるかに眺むオホーツク
知床の嶺雪かぶり
沈む入日に白鳥の
飛影ぞ哀しく消え去りぬ

四

旅のロマンに誘われて
支笏の岸にさまよえば
静寂の嶺は荘厳に
仰ぐ星座は闇に浮き
静に光る北極星

五

荒ぶ吹雪ぞ旅の魂
一年涙胸に秘め
我が夢かけるオリオンに
我が春永久に朽ちざらん
蝦夷が大地ぞ忘るまじ